

番号	作業種別	原因別	場所	発生日	時間帯	年代	経験年数	災害発生状況	傷病の程度	発生原因	再発防止策
R8-04	玉切	林業機械	山林	R8.3.2	10	50	10年～20年未満	<ul style="list-style-type: none"> ・玉切りを行おうとした丸太は、上下に2本重なった状態であった。 ・被災者は現場状況を踏まえ、下側の丸太から玉切りをしようとしたが、その際に、チェーンソーがキックバックを起こした。なお、キックバック発生時の詳細は、とっさのことで被災者本人も把握できていない。 ・被災者は、フェイスガードを上げたまま作業していたため、キックバックした回転中のチェーンソーがまぶたおよび頬部に直接当たり負傷した。 	まぶたおよび頬部を計13針縫合[2日]	<ul style="list-style-type: none"> ・安全より作業効率を優先した作業手順を選択したこと。 ・作業前に汗を拭いた際、フェイスガードを上げたまま元の状態に戻すことを失念したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順を選択する際は、安全を最優先する。本件のように丸太が重なっている状況では、チルホール等を使用し丸太を分離し、安全に玉切りが行える状態を確保したうえで作業を行う。 ・チェーンソーを使用する作業の前には、フェイスガード等の保護具が正しく装着・作動しているかを指差し呼称により確認する。
R8-03	伐採	飛来物・落下物	山林	R8.2.2	15	40	10年～20年未満	<p>間伐作業において、伐倒対象のヒノキに広葉樹が寄りかかっている状態であった。広葉樹は健全であり、ヒノキを伐採しても危険はないと判断して作業を進めたが、ヒノキを伐倒した直後、寄りかかっていた広葉樹が倒れ、被災者の肩に衝突して負傷した。</p>	左肩打撲[9日]	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキに寄りかかった広葉樹を事前に除去せずに伐倒作業を行ったこと。 ・伐倒時の安全確認が不十分であり、さらに「大丈夫だろう」という過信により適切な判断を欠いたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄りかかり木を確認した場合は、必ず事前に除去し、安全が確保されたことを確認してから次の作業に移る。 ・指差し呼称（上方、周囲、足元、伐倒方向、退避場所）をしてから作業にあたる。 ・判断に迷う状況では無理な伐倒を行わず、必ず他の作業者へ相談し、複数名で作業可否や作業手順を決定する。 ・今回の事案について、職員へ概要説明と注意喚起を実施した。今後も定期的に安全教育を行い、危険予知活動の徹底を図る。
R8-02	伐採	その他	山林	R8.1.16	14	50	20年～30年未満	<p>被災者が切捨て間伐作業を行っていたところ、伐倒したヒノキ（直径約20cm）がツル絡みによって予定外の被災者側に倒れ込んだ。被災者はこれを回避しようとした際に体勢を崩し、持病のある左膝を負傷した。</p>	変形性膝関節症[1日]	<ul style="list-style-type: none"> ・作業前に周囲確認および退避場所の確保は行っていたものの、ツル絡みの見落としがあった。 ・回避動作の際に左膝へ急激な負荷がかかり、持病が影響して負傷に至ったと考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な余裕を持って安全な体勢を整え、作業にあたる。 ・ツルが多い現場においては、ツル絡みが確認できない場合であっても、ツル絡みが発生する可能性を想定し、そのリスクに対応できる体勢を整えて作業を行う。 ・追い口が開き始めた時点で、速やかに退避場所に移動することを徹底する。 ・作業前の作業手順の確認や安全確認に「指差し呼称」を取り入れることを周知し、習慣化を図る。 ・サポーターは筋力低下、血行障害、依存傾向を招く可能性があるため、使用する際は担当医と相談し、健康状態や今後の作業内容を踏まえて適切に判断する。
R8-01	伐採	転倒	山林	R8.1.16	13	50	1年未満	<p>当日はKY活動を実施した後、作業を開始した。間伐作業を行っていたところ、伐倒時に退避しようとした際、バランスを崩して転倒した。転倒した場所には間伐材が集積されており、その材木に左あばらをぶつけて骨折した。作業現場の地形は比較的緩やかであったが、積雪と凍結箇所があったため、防護ブーツにアイゼンを装着して滑りにくい状態にして作業を行っていた。なお、指差し呼称については実施していたものの、十分には徹底されていなかった。</p>	左胸部の骨折[全治1～2週間]	<p>退避場所は事前に確認していたが、積雪がある状況でアイゼンを装着しており、普段とは異なる作業環境であったため、急いで退避しようとした際にバランスを崩して転倒した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指差し呼称（足場ヨシ、退避場所ヨシ等）を徹底し、退避場所の確認と退避場所周囲の足場確保を確実にを行う。 ・経験の浅い作業員に対しては、指導者（熟練者）が技術面だけでなく、作業現場の地形や天候などの自然条件を踏まえた作業方法について指導を行う。また、近くで作業を行い、状況に応じて随時指導を行う。 ・冬季は積雪や凍結といった特有の条件により労働災害のリスクが高まるため、シーズン前に新規採用者などの技術者に対し、「転倒」、「落枝・落雪」への注意喚起と指導を行う。 ・現場経験の浅い技術者を中心に、各種研修会へ積極的に参加させるとともに、指導的役割を担うベテラン技術者についても、安全意識向上を目的として定期的に研修会へ参加させ、組織全体で労働災害防止に取り組む。